

平成 27 年度領域シンポジウム「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」 アンケート結果（速報版（2016/3/18））

注) スペースの関係上、自由記述は抜粋、および一部誤字等の修正を行っています。ご了承ください

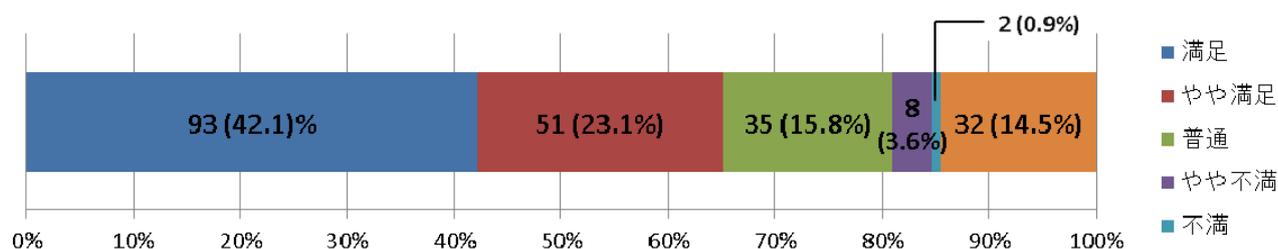
1. 本シンポジウムを何でお知りになりましたか（複数回答可）

電子メール	ホームページ	リーフレット	ポスター	関係者の紹介	知人から	その他
88	24	18	6	39	32	32

※ その他：新聞（17）、正門立て看板／2日前より設置、市へのダイレクトメール、SNS等

2. シンポジウムプログラムへのご意見

2-1. 「研究開発領域を振り返って」について



【自由記述での主な意見】

- 研究の経緯が分かり、導入としてよかった。
- 前後の個人的な意見が前向きで、良いスタートが切れたと思いました。
- 多岐にわたる研究をどのようにマネジメントされてきたかよくわかりました（アドバイザーグループの存在が大きい）
- 高齢化社会の根本問題のとらえ方によって、それぞれ報告内容の評価が異なる。
- 問題の一側面を課題にしているに過ぎない
- 今後さらに新たな視点で研究開発を継続される事を願います

2-2. 「平成 24 年度採択プロジェクト成果報告・ディスカッション」について

	大いに期待	まあ期待	あまり期待できない	期待できない	未回答
1) 「健康長寿のまちづくり」	88 (39.8%)	101 (45.7%)	9 (4.1%)	1 (0.5%)	22 (10.0%)
2) 「最期まで自分らしくいられる社会」	94 (42.5%)	94 (42.5%)	14 (6.3%)	1 (0.5%)	18 (8.1%)
3) 「産学官民協働のまちづくり」	88 (39.8%)	90 (40.7%)	16 (7.2%)	0 (0.0%)	27 (12.2%)

2-2. 関心を持たれたプロジェクト（複数回答可）

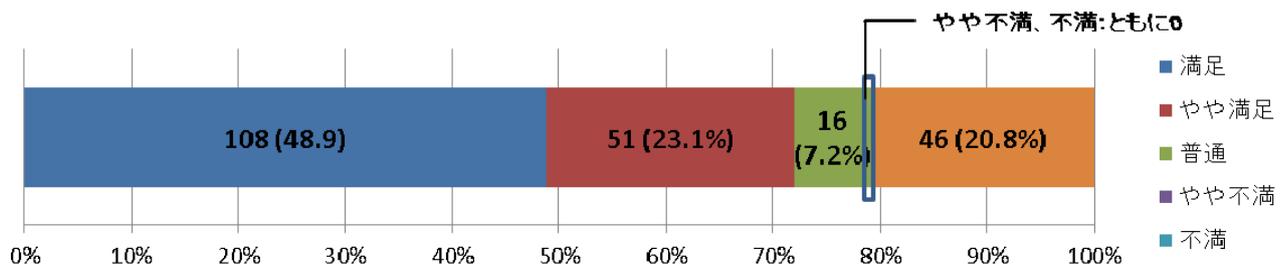
「健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造」（代表：伊香賀俊治）	91
「認知症予防のためのコミュニティの創出と効果検証」（代表：島田裕之）	118
「高齢者ケアにおける意思決定を支える文化の創成」（代表：清水哲郎）	89
「認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発」（代表：成本迅）	60
「広域避難者による多居住・分散型ネットワーク・コミュニティの形成」（代表：佐藤滋）	37
「2030年代をみすえた機能統合型コミュニティ形成技術」（代表：小川全夫）	109
（未回答）	19

【自由記述での主な意見】

- ー 全体（1） マルチステークホルダーによる実践、関わり方へのご意見
 - 学際でなく、住民参加の今回のプレゼンは少しホッとしました。
 - 実践的なところまで踏み込んだ内容だったので、よかった
 - システム、ネットワーク、コミュニティを60～70代の若者が（？）大いに参加して、10年後が楽しみです（ハード・ソフト共に）。
 - 高齢者を弱者ととらえる事にまちがいがある。もっと利用しなければいけない。
 - 高齢化社会に対するこのような取り組みがあったことを始めて知った。経緯も判った。何らかの形で自分も参加してゆく。
- ー 全体（2） 今後への期待と課題に関するご意見
 - 昔からあるコミュニケーションの復活につながりそうで良い。
 - それぞれの発表については、idea と process については理解できましたが、問題は今後実際に機能するかと考えます。
 - これらを日常の関心事としていかに拡大定着させていくか。地域事情の中での課題は多い。
 - 終了した後に PJT への資金が無くなって継続できなくなるということは無いのか心配
- ー 全体（3） 疑問
 - 事例はこれまであるいは他の地域でやられてきたことをやっているに過ぎない。人間行動の変容に関して、アプローチも必要。いろいろな概念図が絵に描いた餅に見えた。
 - 実験的コミュニティデザインの段階の報告、既に「コミュニティビジネス」（CB）、「ソーシャルビジネス」（SB）へ移っている報告と多様でした。興味は CB の部分だったため、もう少し資金的な流れの部分が知りたかった。
- ー 「健康長寿のまちづくり」 関連のご意見
 - コミュニティ形成のためには住民が体験を語り合うことで、お互いが気づきあい、意識が伝わるプロセスが大切と思う
 - 関係者をその気にさせるように盛り上げていくことの重要性を再認識しました。
 - 「住まいと健康」ははじまったばかり。今後の approach に期待したい。

- 「住環境」の点で「戸建居住」か「マンション居住」か、で色々相違がある以上、現在結論の出ている点につき、相違点があるのではないでしょうか。
- －「最期まで自分らしくいられる社会」関連のご意見
- 本人の意思決定というものが本当に大切なものだと感じました。
 - 実際に医療者などがすぐに使えるツールであることが有益（「認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発」プロジェクトに関して）
 - 意思決定支援に相談員のことをもう少し伺いたかったです。
 - 高齢化社会の中では安楽死（終末ケアの問題だけでなく）の問題はとりあげられないのだろうか。病気の中の安楽死は外国では認められつつあると聞く。生きる望みのない人間がなぜ行き続けなければならないのだろうか。
- －「産官学民協働のまちづくり」関連のご意見
- 佐藤・小川全夫先生方の「協働」、Goodな研究報告でした。
 - 人を動かし、人々が望むコミュニティを作ることには容易ではないと思いますが、佐藤、小川両先生のお話を聴いていて、色々苦勞があると思いますが、微力ながら、参加できるのではないかと思えてきた。
 - おひとりさまでなく、おたがいさまの主張はうなずける。高齢化社会はわがことである。
 - 高校生の参画。さらに Boost されたく。輝くひとみをたくさんつくってください（「2030年代をみすえた機能統合型コミュニティ形成技術」プロジェクトに関して）

2-3. 「パネルディスカッション」について



【自由記述での主な意見】

－パネルディスカッション全体について

- パネラーのそれぞれの視点に基づく話がおもしろかった。
- 各界のリーダーの話は実践的アドバイスで参考になった。キーワードがたくさん詰まっていました。
- 既存の考え方を踏まえて大胆な議論を聞くことができたいへん参考になった。特に高齢者のために働く場を与える、大学の地域へのあり方についての話はとてもおもしろく、私も想像がふくらんだ。

- 企業の中にとると事業性など課題・悩みは多いが、パネリストの方々のご発言に元気をもらいました。
- 森市長の市のあり方は特に興味深く聞かせていただきました。現場の声は重みがあります
- とてもイノベーティブでわくわくするディスカッションでした。
- 様々な角度からのディスカッション、大変参考になりました。考え方として、高齢者という表現で1くくりにしない視点の大切さを学びました。私は障がい者の支援の仕事をしていますが、今後の支援に生かしていきたいと思います。アクションを起こしていきましょう
- 社会と高齢者の関係が色々な視点で語られ、自身の刺激になりました。高齢化の先進国として、新しい社会のモデルを産みだすすばらしい活動だと思います。

－ 考え方の転換に関するご意見

- 高齢者集団への見方を逆転させて、社会の担い手とみる。
- 高齢者の仕事づくりが重要。
- これからはせめて高齢者（いくつから？）も市民の一人であり、社会人であり続けられるよう、みんなが輪になって考える時代になって欲しい。生のくらしからクリエイティブなアイデアが生まれる筈です。これからの期待したいです。
- コミュニティを誰が作るのかは色々あり、行政か大学か、住民かなど、ただきっかけが必要なのだろうと思いました。行政でのしぼりなど見直しが必要なものが今日のお話で出た以外にもあるのだろうと思い、もっと柔軟な産学官民協働（特に官）が必要だと思いました。
- 15年、20年先に自分も高齢者になり、暗いイメージばかりしていた。でも少しだけ明るい光を感じました。学んで仕事して元気で面白い生活を若者に背負って支えてもらうことばかり期待せず、自分の足で考えなければと思いました。

－ 考えるきっかけになったとのご意見

- 明るい元気の良い高齢社会共創を頭においてまわりをひきこみ、日々を送りたく思った。
- 現実に努力したことがよく理解し、我々も言葉より協力する行動をせねばと反省しました。
- いきいきとした人生を全ての高齢者が送れる社会を作りたいです。その為には自分は何ができるか…考えます
- 今、私はこのテーマで何ができるか、ゆっくり考えてみたいと思います。

－ 期待や要望、疑問に関するご意見

- 高齢社会共創センターは是非創設してください。各地域で実証実験したデータを公に広めていただきたい。
- ①高齢化社会に対応するための基本方針、②取組みのための科学的根拠、対応、評価を知るために、是非「高齢社会共創センター」創設を期待します。
- このような取り組みによって、市町村にモデルを示してほしい。机上から離れ、現場で動いてくださるよう、もっと発信してください。
- 民間企業・業界の入りやすいやり方、課題の投げ掛けをお願いいたします。

- 横への展開部分の具体的姿が今ひとつ不明であった
- 高齢化は色々なところで議論されているが、ぜひとも少子化についても議論してもらいたい。
- ひとつのセッションの発表時間がすくない。

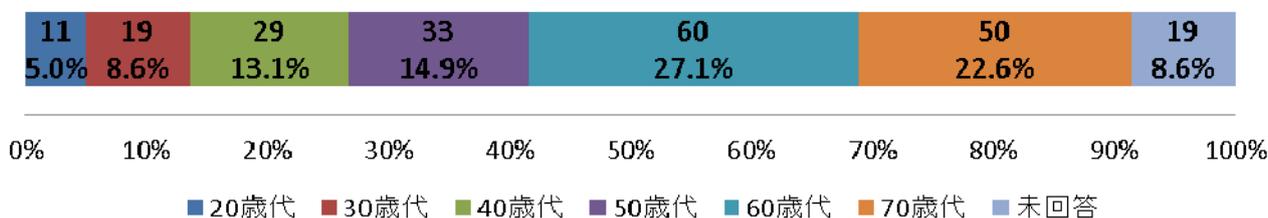
2-4. ポスターセッションについて（複数回答可） / 当日ポスター提示順（有効回答数：156）

「高齢者の営農を支える『らくらく農法』の開発」（代表：寺岡伸悟）	30
「セカンドライフの就労モデル開発研究」（代表：辻哲夫）	36
「新たな高齢者の健康特性に配慮した生活指標の開発」（代表：鈴木隆雄）	30
「社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり」（代表：中林美奈子）	34
「高齢者の虚弱化を予防し健康寿命を延伸する社会システムの開発」（代表：新開省二）	50
「認知症予防のためのコミュニティの創出と効果検証」（代表：島田裕之）	50
「健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造」（代表：伊香賀俊治）	40
「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」（代表：小川晃子）	42
「広域避難者による多居住・分散型ネットワーク・コミュニティの形成」（代表：佐藤滋）	11
「2030年代をみすえた機能統合型コミュニティ形成技術」（代表：小川全夫）	53
「『仮設』コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」（代表：大方潤一郎）	15
「高齢者による使いやすさ検証センターの開発」（代表：原田悦子）	21
「高齢者ケアにおける意思決定を支える文化の創成」（代表：清水哲郎）	46
「認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発」（代表：成本迅）	34
「在宅医療を推進する地域診断標準ツールの開発」（代表：太田秀樹）	36
「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域	47

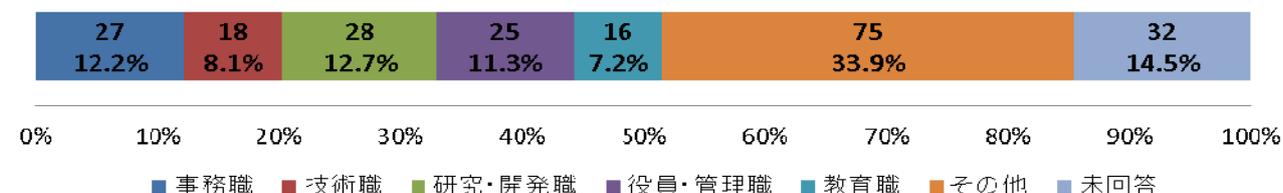
3. **基本属性**

性別：男性=132 (59.7%)、女性=74 (33.5%)、未回答=15 (6.8%)

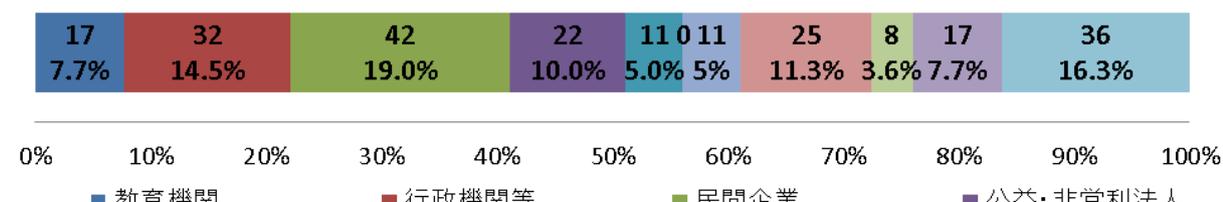
年齢：



ご職業：



ご所属：



4. シンポジウム全体について【自由記述での主な意見】

ーシンポジウム全体を通したご感想

- とても前向きで次の展開を期待したく思いました。各先生方もかなり頭の柔らかい講演に少し安心いたしました。
- 視野が広く現実的課題に熱心に取り組む姿勢に感嘆しました。
- 高齢社会という広いキーワードで様々な専門家の研究発表や考え方を聞くことができてたいへん楽しかった。ここでの議論は自分の領域に戻り、参考にさせていただき、これからの成果にしていければ良いと思った。
- 行政や研究者からの提案で展開していくのではなく、国民一人一人が、それぞれのコミュニティで、お互いが支えあっていける社会にしていくためには、何をしなければならないのか、考えたい。
- 医療・福祉の現場にいるが、さまざまな分野から知恵を出し合い高齢社会を考えていく必要があると思った。新鮮でした。
- 研究者側の苦労も聞けて為になりました。
- 赤いTシャツ以上に輝く笑顔と元気でポスターセッションしておられた歩行圏コミュニティのみなさんが印象に残りました。踊るポンポコリンの映像も楽しそうでした。みんなが楽しんで取り組んでおられるのがよく伝わりました。
- できない理由はいくらでも見つかる。どうしたらできるかを考えなくてはいけないと、秋山総括が言われた言葉が印象に残った。シンポジストの皆様のお話もなかなか興味深くメモしました

ー本領域活動、および更なる展開に向けたご要望

- 15の社会技術 再整理中とのこと、展開期待しています。Processレベルでまとめるとのこと、期待しています。
- 東京以外でもやってほしい。地方で、小さなものでもいいので。全国を回っていくことで、地方の、田舎ものの、新しいものにうとい人達の意識改革が起こりやすいのではと思います。
- 今後、是非セミナー（テーマ別）形式で継続開催をお願いいたします。
- 今後も産官学共同で取り組む意識を喚起するべく定期的な発表（中間報告等）をお願いいたします。
- 実践の社会で利用できるように、成果の活用を各分野でお願いしたい。
- 高齢社会をデザインする上で、地域にある様々な試みや潜在的資源を顕在化・見える化しながら、それをつなぎ、協働する人の動機づけが最も大切と思います。今回のように領域毎にその関連性を調査研究し、具体的な実践を関係者が評価することで次につながります。次なる「高齢社会共創センター」に期待します。

一 疑問点、その他

- 「マンション居住」と「戸建て居住」とでは、「住環境」の相違に始まり、高齢・介護を考える際に、「ひとくくり」の結論は適さないのではないか、との疑問点があります。
- 一点気になったのは、高齢者というグループのなかの多様性があまり触れられていなかったことです（地域の多様性は何度も言及されていましたが）。ジェンダーや経済的側面（裕福／貧しい）などによっても高齢者自身が置かれる状況がかなり異なる気がします
- もっともっと現場の声、各地域で今ががんばっている事を知ってください。聞いて下さい。現実的に政策に出来る研究成果を出してください。
- 地域の縮小や財政問題への言及がほしかった。
- 世界の高齢化社会は日本の成り行きをみている。日本の関連学界が果たす役割は大きい。最新の社会システムの開発課題は多々ある。開発課題を解決するためには、当市を積極的にやらねばならない。地域の大学の力が必要である
- 大地震によりコミュニティが切りさかれた福島での取り組み事例は、国・自治体がやってくれることに頼ることではなく、自らが動き始めることが、解決につながることを示している
と考える。

以上